

第4章 まとめ

第1節 「つぶらっこ」様関連

子宝・子育てに関係する民間信仰の場所が、長野原町の林と与喜屋の計3ヶ所に存在する。特に、林の神明宮は伊勢神宮に関係する。

同様の事例は、例えば子安（こやす）信仰などにもみられる。これは子授けや安産の願いをかなえて、子の安らかな成長を守る神であり、特に仏教との結びつきが強く、東日本では子安菩薩とも呼ばれるものである。また、月の十九日に宿を定めて女の人が集まる事から、十九夜講とも呼ばれる民俗事例で、灯明や線香をあげ、十九夜念仏を唱え、お産が軽く済む様に祈願した。このように、十九夜様は女性のための神様として、主に安産を祈願するなど、女性からの信仰を集めている。石像や石塔に子安地藏の姿を刻んだものが多いが、幼児を抱く女神像や自然の石を御神体を用いる事もある。あるいは産泰様、子授け様ともいい、前橋市の産泰神社などが代表例である。物質的なものとして、子生み石が存在するが、「三州奥郡産育風俗図絵」によると、床の間または座敷の上席に「産土神様（ウブノカミサマ）」といって小石二個（直径一寸くらい）をお膳の上にのせて飾り、その前に帯を飾っておく。着帯が済むと、とりあげ婆さんと産土神様へお膳を出し饗応する。

さらに、子育て関係としては、太田市の子育て呑竜様、あるいは高崎市の山名神社の「瘡の虫切り」、それに、鎌倉市の大巧（だいぎょう）寺に伝わる難産で亡くなった女性を祭る「おんめ様」などがある。「天文元年のある日、大巧寺の日棟上人が滑川の橋を渡ると、難産で死んだ女が、川を渡れない上、子供が乳房に吸い付いて泣くので苦しい、と言って助けを求めた。上人が経をあげると女は姿を消したが、数日後に現れて、塔を建ててお産に苦しむ人を救ってほしいと言ってお金を手渡した。上人は女を産女霊神（おんめさま、おんめ様）として寺に祭った」といういわれに基づいている。

さらに、石そのものを信仰の対象とするものとして、石神関係がある。これについては古くから石に霊力があると考えられており、『風土記』や『延喜式』にもその記載があるくらいである。こうした事例を全国で検索してみる事とする。よく知られている丸石信仰は山梨県に多く、縄文時代から続くものとの考え方もある。玉（たま）信仰としては、神奈川県三浦市の「子産石」が著名である。これは、海中の丸石を拾って床の間に飾ると魔よけになって子が授かるというものである。横須賀市の「子産石」も同様のもので、礫岩とも呼ばれる丸い石が含まれている。銚子市の菅原神社にも同様のものが存在する。この他に、道祖神があり、長野県や群馬県にも多い。中には陰陽石と呼ばれるものもあり、特に陽は男性のシンボルを形取ったものと言われており、「金精様」とも呼ばれる事もあり、横壁地区の丸岩が相当するのではないだろうか。同様に、丸石は円い形が胎児や幼児の寝姿に例え、石が子を産み出すにあやかって、子どもに恵まれない女性が「子産石」を撫でた手でお腹を触ったり、石でお腹を撫でると願いが叶う、などと言いつたえられている。代々、殖の神・安産の神が宿る石として崇拝されてきたようである。

次に、同様の全国での事例をみってみる事とする。

北海道木古内には、子宝に恵まれない女の人がいいて、ある晩、女の人のお枕元に白い着物を着た長いひげの老人が現われ、「裏の山の一番大きな木の下を掘って、そこからでできたものをまつりなさい」と言って消えてしまった。朝目が覚めると、老人の言っていたように掘り、長さ30cmほどの石が出できて、それを神社におさめ、数日して行ってみるとその石の上に小さな石がついていて、それから毎日女の方は神社にお参り行った。そうしているうちに子供が授かり、たいへん感謝し、この話はすぐ村中に知れわたり、「子持ち石」と名付けられ、安産の神社としてもまつられていて、現在でも8月20日におまつ

りをしているという話などが言い伝えられている。

栃木県日光市の日光東照宮に向かって左脇に日光二荒山神社があります。別宮の滝尾神社は女峯山の女神である田心姫命（たごりひめのみこと）をお祀りする神社です。白糸の滝の脇の階段が滝尾神社入り口で、神社の一番奥まった所に子種石があり、その子種石に触れて子宝や安産を願う。

埼玉県秩父市の秩父札所3番の常泉寺には、「子持ち石」があり、抱き上げて心の中で念じながら撫でると効き目があると言われている。

神奈川県横須賀市秋谷には、古い文献である『三浦古尋録』に「曲輪（くるわ）の浜に子産石云々有年此石より石を分出す、故に子産石と云ふ」とあり、このことから、「子産石」が生殖の神、安産の神が宿る石として崇拝されてきた事が分かる。子供に恵まれない女性が「子産石」をなでた手で腹をさすると懐妊するとか、妊婦が石で腹をなでると安産になるなどの伝承が、現在まで残っている。現在では、バス停子海石付近にある直径約1mの「子産石」を、全体の象徴として神奈川県が指定している。長者ヶ崎をさらに南に向かっていくと久留和というところがある。ここには「子産石」と呼ばれているノジュール（団塊）があり、この「子産石」は砂粒が炭酸カルシウムによって固結したものであり、希塩酸をたらすと盛んに二酸化炭素の泡を出すという。不思議な事に、「子産石」はきれいな球形をしている。

静岡県掛川市の遠州孕石神社では、大きな石から小石をはがすように取り、お札を頂いて、その石を腹巻などの中に入れ、お腹に巻き、毎日お祈りをする。ご神体は礫岩（岩の中にさらに小さな石が幾つも埋まっている）で、その小石を子宝に見たててご利益を期待する。

愛知県南設楽郡鳳来町・子抱き観音には、お寺の七滝に「子抱き石」と「子抱き観音」があり、「子抱き石」の下で丸い石を拾い、寝室に置いておくと、子宝に恵まれると言われている。

大阪府阿倍野区の安部晴明神社にあるのは、「鎮み石・孕み石」といわれる石で、古代の船の錨とし

て使用した石を鎮めるという意味から、安産を祈る石となり、「孕み石」と呼ばれ信仰の対象になっている。

岡山県備前市の三石明神社は、神功皇后が懐妊中に石に腰かけ休息されたという。祭神は神功皇后であらうか。三石神社は孕岩神社とも呼ばれているようで、子宝に恵まれる御利益があるという。

福岡県宇佐市の宇佐八幡宮には、子授け、安産の神様が祭っており、奉納してある石を持って帰り、無事生まれたら、もう一つ石を持ってお礼参りに行く「お石とり」という安産祈願で有名である。

熊本県阿蘇郡南阿蘇村（旧白水村）の明神池は歴史とご利益の宝庫であり、湧き出る名水に身を淨め境内の群塚神宮の誕生石に祈ると子宝に恵まれ、境内の乳イチョウの気根を撫でると乳の出が良くなると言われている。

沖縄県国頭郡伊江村の伊江島の南西にある自然洞窟であるニャティヤ洞（千人洞）には「力石（ビジル）」があり、この石を子宝に恵まれない女性が持ち上げると、願いがかなうと言われている。

この他にも、全国各地に様々な形での民間信仰が存在するものと思われる。これらを大きくタイプ分けすると、①本体の一部、あるいはまわりの小石を持ち帰るタイプ、②抱く・抱き上げるタイプ、③触るタイプ、④拝むタイプなどがある。これ以外にも対象物ではなく⑤温泉などに浸かるタイプも存在するが、これは温泉の効用の一部であり、玉石関連とは区別する事とする。こうしたタイプの違いが、信仰対象物の形状や大きさなどにも関係していると考えられる。

本遺跡での「つぶらっこ」様の場合は、現状では①のタイプであるが、「丸岩」との関係を考えて場合、本来は④のタイプであった可能性が高いと考えられないだろうか。